

科目名	担当者名	配当	期	単位
心理学	巖 島 行 雄	1・2・3選必	前期	2

■講義内容■

目撃証言は証拠のなかでもっとも危険な証拠と言われている。しかし、その反面、もっとも信用されやすい証拠でもある。過去、目撃証言によって多くの冤罪が生まれてきた。この冤罪を生みやすい目撃証言については、原因の解明のために現在にいたるまで数多くの心理学研究がなされてきた。本講義では、1) 目撃証言を生み出す基礎的な認知プロセスについて講義し、次に、2) 目撃証言の信用性を規定する諸要因について、応用認知心理学や法心理学の領域の研究成果を紹介し、人間の認知（とりわけ記憶）がどのように歪むのかを、実際の事件を紹介しながら考察する。

■シラバス■

<科目のねらい>

人間の認知がどのようなメカニズムによって成り立っているのかをまず理解する。次に、それらの認知を歪めるような心理学的要因について理解を深める。その後、目撃証言の信用性に影響する諸要因の研究を概観し、人間の認知の法則性についての理解を深める。

<科目の内容>

第1回 なぜ目撃証言心理学なのか

実際の事件を通して、目撃証言がどのように誤るのか、そして裁判ではどのようなことが起るのかを考える。

第2回 目撃証言心理学の歴史的発展

目撃証言の心理学は心理学の誕生からそれほど遅れる事なく生まれた。目撃証言の心理学がどのような経緯を辿り、現在に至ったかを解説する。

第3回 目撃証言による冤罪

目撃証言が主な証拠として採用されたために起こった冤罪について考える。米国の誤判研究を例に、最近の冤罪の傾向についても解説する。

第4回 目撃証言に関与する要因

目撃証言には多くの要因が関与する。ここではそれらの要因や要因の分類について解説する。

第5回 目撃証言心理学の研究法

目撃証言の心理学がどのような方法によって研究されているのかを説明する。アーカイブ法・調査法・実験法、実験室実験とフィールド実験等の方法を実際の研究とともに紹介する。

第6回 アーカイブ法

ここでは現実に起った事件の目撃証言研究を取り上げ、目撃者の記憶と情動的体験の関係を示す科学的な研究を解説する。

第7回 調査研究法

調査研究法を用いた目撃証言研究を紹介し、特に専門家証言の機能について考察する。

第8回 情動と目撃証言1

目撃者が強い情動を経験するとき、その経験の記憶は情動によってどのような影響を受けるのか。実験的研究結果を整理して、記憶への影響について考察する。

第9回 情動と目撃証言2

目撃証言は情動の影響を強く受ける。第8回の講義を受けて、この情動の影響の理論的説明について考

える。

第10回 目撃証言への事後情報の影響

目撃者は目撃を経験した後の出来ごとや情報によって強く影響を受ける。これは事後情報効果と呼ばれる。この現象や現象の説明理論について考える。

第11回 目撃証言への社会的影響

目撃証言は他者からの意見や情報によって強く影響を受けることがわかってきた。最近の研究を通して、この現象について考える。

第12回 目撃証言における統制変数

ラインナップに影響する諸要因について概説する（含む、インタビュー方法）。

第13回 目撃証言の取り扱いに関するガイドラインのあり方

イギリスのPACEに学ぶ－今後の目撃証言研究の展開と日本のガイドライン－

第14回 尋問方法の心理学－誤った記憶を誘導しない質問方法について－

第15回 定期試験

<教科書>

巖島行雄・仲真紀子・原聰『目撃証言の心理学』（北大路書房、2003年）

<参考書>

渡部保夫監修『目撃証言の研究』（北大路書房、2001年）

ロフタス & ケッチャム『目撃証言』（岩波書店、2000年）